

2020

3.20 FRI

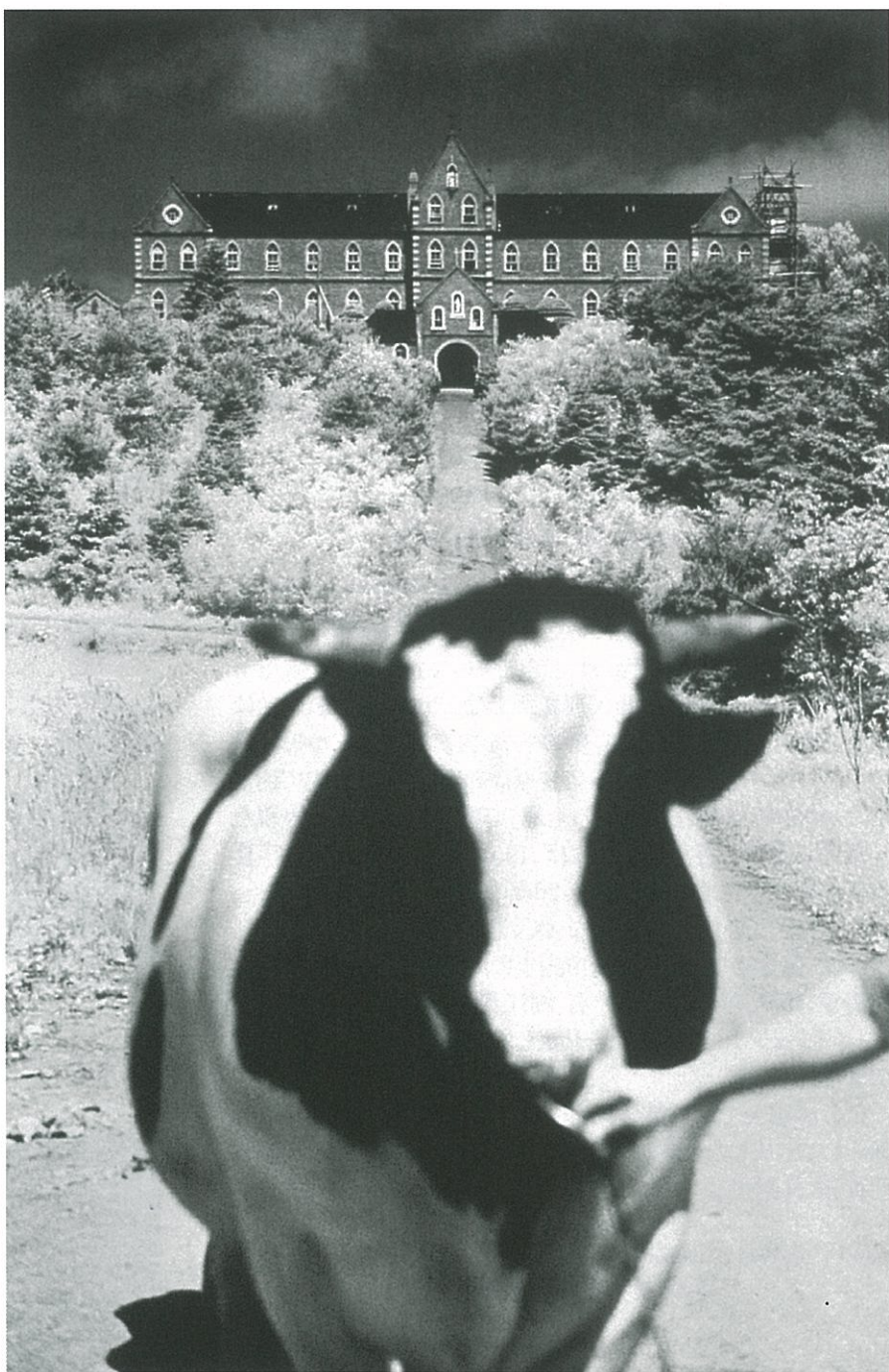


6.21 SUN

島根県立美術館  
展示室4・5

N A R A H A R A

I K K O



《沈黙の園(王国)より》1958年 島根県立美術館蔵  
©Ikko Narahara

追悼 奈良原一高

# 奈良原一高 「王国」と VIVOの時代

【開館時間】

10:00～日没後30分  
(展示室への入場は日没時刻まで)

【休館日】

火曜日(ただし5月5日は開館)

一般:300(240)円  
大学生:200(160)円  
高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金。  
※企画展と同日に観覧の場合は半額になります。  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付添の方は観覧無料。

 島根県立美術館

追悼 奈良原一高

# 奈良原一高 「王国」と VIVOの時代

3月20日[金・祝] ▶▶ 6月21日[日]

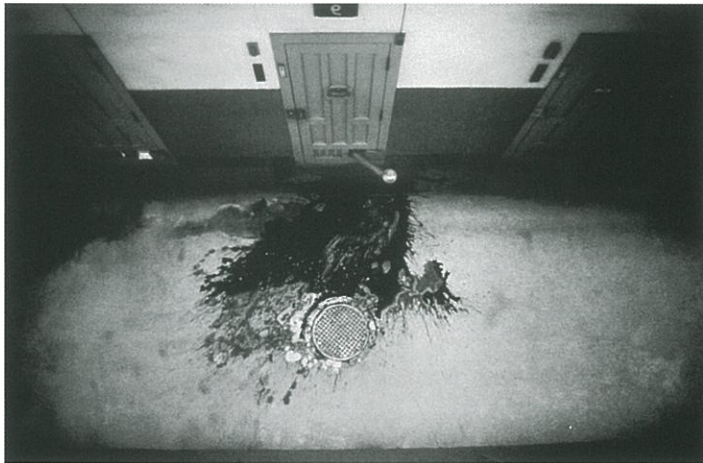
会場: 島根県立美術館 展示室4・5

北海道が春を迎える頃、奈良原一高(1931-2020)は函館近郊当別のトラピスト修道院にいた。わずか9日間の撮影で「沈黙の園」は生み出された。それは、自ら祈りの生活に入った修道士の世界。一方、和歌山県婦人刑務所では、罪を犯して強制的に収監された女囚たちの世界「壁の中」を撮った。この二つの閉壁の中を対比させた「王国」を、奈良原は二度目の個展として開催した。1956年、初個展「人間の土地」で戦後日本の写真表現を一新する衝撃を与えた奈良原は、1958年、「王国」で日本写真批評家協会新人賞を受賞した。26歳の秋のことである。

「人間の土地」展が契機となって、若い写真家たちが集結し「10人の眼」展が開催された。1959年には、川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、奈良原一高、細江英公の6人が、写真のセルフ・エイジェンシー「VIVO」を結成していく。戦後の写真新時代の幕開けだった。

この展覧会では、1995年、作家本人に「王国」の決定版をお願いして完成した149点全点と、VIVOの作品・資料をあわせて約170点展観する。

2020年1月19日、奈良原一高氏は88歳で逝去されました。  
心よりご冥福をお祈りいたします。



《壁の中(王国)より》1956-58年 島根県立美術館蔵

©Ikko Narahara

◎ギャラリートーク

講師: 薦谷典子(当館主席学芸員)

日時: 2020年5月31日(日) 14:00から約45分

会場: 展示室4・5

※要コレクション展観覧料

《壁の中(王国)より》1956-58年  
島根県立美術館蔵

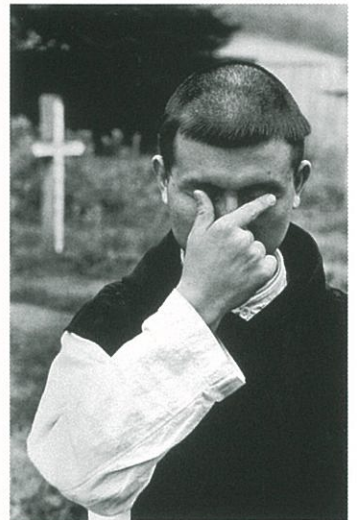
## 沈黙の園



《沈黙の園(王国)より》1958年 島根県立美術館蔵

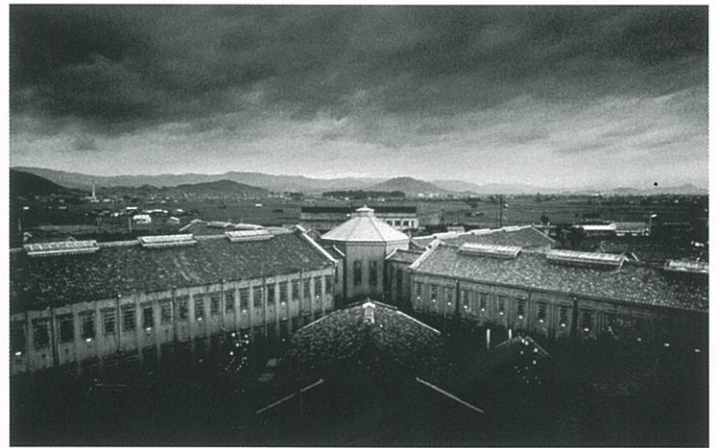


《沈黙の園(王国)より》1958年 島根県立美術館蔵

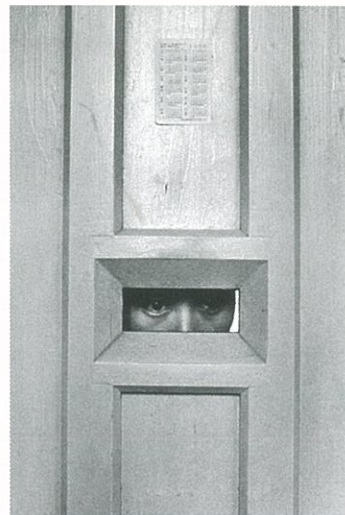


《沈黙の園(王国)より》1958年 島根県立美術館蔵

## 壁の中



《壁の中(王国)より》1956-58年 島根県立美術館蔵



 島根県立美術館

〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5  
TEL.0852-55-4700 FAX.0852-55-4714  
<https://www.shimane-art-museum.jp>